

令和元年度 第二部会技術分科会 活動報告（概要）

令和3年7月
一般社団法人 日本消火装置工業会

1. 委員会

(1) 委員構成

13社14名で構成

(2) 開催回数

定例会（原則月1回）9回＋合同委員会1回＝計10回

2. 審議・確認事項

(1) PFOA規制への対応について

- ・PFOA等対応WGで薬剤に関する専門的な活動を実施してもらい、フォームヘッドとの関係や化審法技術基準との兼ね合いを検討した。
- ・関連省庁との協議を実施した。
- ・一部マスコミ取材への対応を実施した。

(2) 問い合わせ窓口の修正について

- ・担当者異動などに伴い、窓口が変更になる会社が複数あったので、修正し消装工のホームページにて公開した。

(3) 毒物および劇物取締法パンフレット修正について

- ・パンフレットに官報記載の物質名（N，N'－ビス（2－アミノエチル）エタン－1，2－ジアミン）の記載がなく、トリエチレンテトラミンが慣用名である旨を追記した。
- ・発行経緯を履歴として残すため、追記年月を記載する書類とした。

(4) PFOS取扱マニュアルや関連資料の修正について

- ・紹介している処理施設からPFOSの取り扱い中止を申し入れたところがあり、マニュアルやリーフレットの修正を実施した。

(5) 特殊消火設備の設置基準等に係る検討部会について

- ・検討部会発足に伴い、駐車場用消火設備について議論を行なった。
- ・検討部会に部長を委員として、主査をオブザーバーとして派遣した。
- ・検証試験方法について審議し、検討部会にて提案を実施した。

(6) (一社) 東京防災設備保守協会より講師派遣依頼について

- ・研修会への講師依頼があり、テーマは「泡（PFOS、PFOA）とポンプの事故事例」。
- ・主査を派遣した。

(7) 泡消火薬剤の経年劣化試験の実施について

- ・泡消火薬剤の経年劣化に関する知見を得るため、各泡消火薬剤を恒温槽に入れた加速経年劣化試験を実施した。期間は令和3年までの約2年間。

(8) 合同委員会

- ・技術委員会、第一部会、第三部会と合同の委員会を令和元年11月に担当部会として開催し

た。

3. 関連作業部会および外部委員会

(1) PFOA等対応WG

- ・令和元年度は9回開催した。

(2) 消防用設備等点検報告制度のあり方に関する検討部会について

- ・部会長が委員として参加した。
- ・泡消火設備の点検基準の改正について検討が始まったもの。
- ・現状の課題および性能担保のあり方について検討した。

以 上